


~~~~~  
《 1 はじめに 》  
~~~~~

◆◇「リオから東京へ」◇◆

南米初の開催となるリオデジャネイロ五輪が5日（日本時間6日午前）、ブラジル・リオデジャネイロ市内のマラカナン競技場で開会式を行い、4年に一度の祭典が幕を開けた。大会のスローガンは「新しい世界」。国際オリンピック委員会（IOC）が創設した難民選手団の10選手も参加する。世界各地で難民や移民の問題が噴出し、大会直前には国家ぐるみのドーピング隠しが明らかとなったが、人種や国籍、宗教に関係なく誰もが公平なルールで競い合うオリンピック本来の熱戦を期待したい。

今大会における日本選手団の活躍に注目してみよう。日本選手の金メダル第1号は男子400m個人メドレーの荻野公介選手である。同種目で瀬戸大也選手も銅メダルを獲得したことから、60年ぶりのダブル表彰台となった。競泳女子200m平泳ぎでは金藤理絵選手が優勝し、バルセロナ大会以来24年ぶりの金メダルとなった。27歳11か月での五輪メダルは日本競泳女子の最年長記録になる。

体操男子団体総合でも日本は金メダルを獲得した。同種目の金はアテネ五輪以来3大会ぶりで、ローマ大会からモントリオール大会までの5連覇と合わせて7度目の優勝となる。また、体操男子個人総合で、内村航平選手が44年ぶり史上4人目の2連覇を達成した。最終種目の鉄棒で着地を完璧に決め、わずか0.099の点差で大逆転した。

柔道は、男子73キロ級の大野将平選手、90キロ級のベイカー茉秋選手、女子70キロ級の田知本遥選手が金メダルを獲得した。日本は、男女14階級で史上最多の12個のメダルを獲得しお家芸復活を印象づけた。

このほか、重量挙げ女子48キロ級で三宅宏美選手が3位に入り、ロンドン大会の銀に続き2大会連続の表彰台となった。卓球男子では、日本のエース水谷隼選手が銅メダルを獲得し、男女通じて日本卓球シングルス初のメダルを手にした。カヌー男子スラローム・カナディアンシングルで羽根田卓也選手が3位に入り、この競技で日本選手初のメダル獲得となった。

14日で大会9日目を終えたが、早くも前回ロンドン五輪に並ぶ7個の金メダル、そして銀メダル3個、銅メダル14個を獲得している。連日のメダルラッシュであるが、地球の裏側で活躍している日本人選手を見ようと、夜更かしが続いている方々も多いと思う。21日（日本時間22日）の閉幕まで、目の離せない戦いが続きそうだ。引き続き、2020年東京五輪につながる戦いを、日本選手の後半戦の活躍を楽しみにしている。

4年後の東京五輪は、7月24日から8月9日までの酷暑の中で、パラリンピックは8月25日から9月6日の残暑の中で開かれる。競技の時間帯を調整し、霧を吹き出すミストシャワーを設けるなど、知恵を絞り工夫をすることが必要になる。下水の再生水を使って打ち水もしようではないか。

閉鎖性水域である東京湾では、トライアスロンやセーリング、カヌー競技なども行われる。東京湾の水質浄化対策も一層進めることが求められる。

2020年の東京大会は、水素を始めとするエネルギー関連技術や気候変動によって引き起こされる豪雨への対応、都市機能を健全に保つための老朽化対策など、日本が誇る世界最高水準の下水道技術を世界から訪れる人々に知ってもらう良い機会でもある。

例年7月末に開催される下水道展は、4年後、東京開催ではなく地方開催となるが、日本の下水道をPRするまたとない機会である。開催場所や開催時期について、今から十分に検討してみてもどうか。

理事兼技術戦略部長 松浦 将行

~~~~~  
《 2 トピックス 》  
~~~~~

◆◇「下水道展'16名古屋」ご来場ありがとうございました◇◆

先月号（177号）でご案内させていただきましたが、7月26日（火）～7月29日（金）まで開催された「下水道展'16名古屋」にて、ブース展示を行いました。たくさんの方にご来場いただき、ありがとうございました。

JSブースでは、改正日本下水道事業団法による業務の拡充の概要、維持管理業務や災害支援への対応、新技術の開発・導入等に関するパネル展示や、技術報告会、地下空洞の車両牽引探査機等の実機展示や下水道BIM/CIMデモンストレーション、JS新技術パスポートなど、JSの取組みを地方公共団体を始めとする下水道関係者の皆さまに、紹介させていただきました。また、今後の業務等において、お役に立てば幸いです。

に思います。

(技術開発企画課)

◆◇第3回 下水汚泥由来繊維利活用システム専門委員会を開催◇◆

昨年度10月に開催されました、第72回技術評価委員会(会長:津野洋 大阪産業大学教授)において、JS理事長から同技術評価委員会に「下水汚泥由来繊維利活用システムの技術評価」が諮問され、平成28年度秋の答申に向けて、専門事項の調査審議について本委員会への付託が決定されました。

これを受け、7月22日(金)に「第3回下水汚泥由来繊維利活用システム専門委員会」(委員長:李玉友 東北大学教授)をJS本社にて開催いたしました。

本専門委員会では、下水汚泥由来繊維利活用システムについて、技術評価の内容や適用手法等について調査審議を実施し、審議結果を技術評価委員会へ報告する予定です。

(資源エネルギー技術課)

~~~~~  
◀ 3 技術情報 ▶  
~~~~~

◆◇よく見かける下水道用語◇◆

「塩素消毒」

処理場における消毒方法の中でもっともよく用いられる「塩素消毒」を取り上げたいと思います。

以前、技術開発情報メールの「今さら聞けない下水道用語」で「消毒」について取り上げており、塩素消毒の原理・副生物等については既出事項なので、以下のリンク先を参照ください。

www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/kadai/syuryo_report

▼続きはHPで↓

<http://www.jswa.go.jp/g/g5/g5m/mb/pdf/178-1.pdf>

(技術開発企画課)

~~~~~  
◀ 4 ふくしまからはじめよう。 ▶  
~~~~~

◆◇ふくしまからはじめよう。◇◆

(福島再生プロジェクト推進室)

今年度より隔月でお送りしております「ふくしまからはじめよう」のコーナーでは、福島関連の情報も交えつつ、「福島再生プロジェクト推進室」が担当しているプロジェクトの進捗を中心に情報提供しております。

盆休みも明けて台風シーズン到来ですが、蝸(ヒグラシ)の歌声を背にしながら夕涼みをしていますと、そろそろ秋の気配を感じます。あと一月ほどでもう秋の収穫時期が参ります。

▼続きはHPで↓

<http://www.jswa.go.jp/g/g5/g5m/mb/pdf/178-2.pdf>

~~~~~  
《 5 国際戦略室からのお知らせ 》  
~~~~~

◆◇日越会議◇◆

(国際戦略室長 藤本 裕之)

日本の7月と言えば、下水道界では・・・「下水道展」です。今年は、7月26日～29日に、名古屋で開催されました。下水道展に併せて、本題の「日越会議」が7月27日に開催されました。正式には、「下水道分野における技術協力に関する日越定期会議」というもので、国土交通省下水道部とベトナム国建設省技術インフラ局の意見交換会です。毎年2回ベトナムと日本で開催されており、今回は9回目です。・・・

▼続きはHPで↓

<http://www.jswa.go.jp/g/g5/g5m/mb/pdf/178-3.pdf>

~~~~~  
《 6 下水道よもやま話 》  
~~~~~

◆◇土づくりと下水道◇◆

(資源エネルギー技術課長 細川 恒)

下水汚泥の緑農地利用量については、全体の汚泥処分量に占める割合は2割弱と少ない状況ではありますが10年間で約1.3倍に増加しています。増加の要因としては、地域差がありますが、埋め立て処分やセメント化等の建設資材化利用よりも処分費用が比較的安価であり、環境問題や持続的な環境保全型農業への関心度の向上等により、下水汚泥処分方法の有効な手段として選択されつつあるということではないでしょうか。・・・

▼続きはHPで↓

<http://www.jswa.go.jp/g/g5/g5m/y/pdf/y157.pdf>

~~~~~  
《 7 国・公共団体・企業の主に海外の水関連の動き(7月分) 》  
~~~~~

日付 キーワード URL

7/8 JICA ベトナム下水道センター JS モデル <http://www.decn.co.jp/?p=72213>

7/26 世界的水不足 IoT 技術活用 <https://roboteer-tokyo.com/archives/5197>

(国際戦略室)

~~~~~  
《 8 編集後記 》  
~~~~~

今月号も最後まで読んで頂き、ありがとうございました。

寝不足と戦いながら、一生懸命応援したりオオリンピックも終わってしまいましたね。

金メダル12、銀メダル8、銅メダル21と予想以上に素晴らしい結果で、日本人は実力はもちろん、精神面でも本当に強くなった、プレッシャーに負けないぞ!と感じました。2020年東京がますます楽しみです。

さあ来月はパラリンピックです!こちらも期待して応援しましょう!

